

第1章

この1年で新たに15社が適用 新規任意適用企業の二覧と 初度適用時の開示パターン

【この章のエッセンス】

- IFRS任意適用企業（IFRS適用決定会社を含む）の合計は、ここ数年の増加は鈍化しているものの268社となっている。
- 東証市場別で見ると、プライム市場のみIFRS適用会社数が1割超となっている。
- 最初のIFRS財務諸表の開示時期は、今回の新規分析会社においても、年度と四半期から開示するパターンがほぼ同数となっている。

IFRS任意適用の 拡大と本稿の分析対象

IFRSを任意適用し有価証券報告書を公表する企業は、2019

年6月末の開示分析以降で鈍化しているものの引き続き拡大している。2023年6月末時点でのIFRS適用済会社およびIFRS適用決定会社の合計は、2022年6月末時点の258社から、新規適用済または新規適用を決定した企業の18社を加え、上場廃止した8社を除き268社となっている（図表1）。

また、前回の分析以降、2023年6月末までの1年間に於いて、新たに15社がIFRSを適用し、7社が会社統合等により上場廃止となりIFRS適用会社から外れた結果、2022年3月末時点でIFRSを適用した連結財務諸表を公表する企業は254社となった。なお、新たにIFRSを適用した15社のうち四半期開示のみの1社を除いた14社と、前回分析時に四半期開示のみで

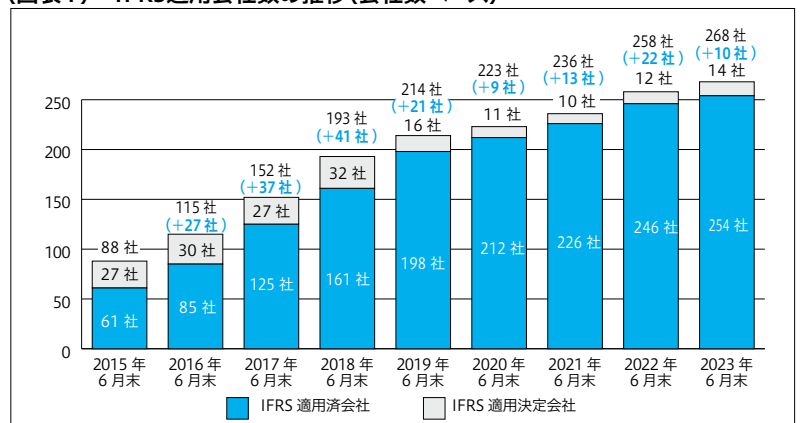
IFRSを適用した有価証券報告書が今回初めて分析の対象となった4社の計18社については図表2を参照されたい。

これにより、2023年6月末までに有価証券報告書または「上場申請のための有価証券報告書（Iの部）」においてIFRSを任意適用した企業は、254社中四半期開示のみを行っている1社を除いた253社に達した。

なお、253社の東証市場別内訳については図表3、東証業種分類別内訳については図表4を参照されたい。

次章以降でIFRSが要求する開示が実際にはどのような行われているのか等を中心に開示分析・調査を行い、今後IFRSの任意適用を検討する企業およびIFRS財務諸表利用者の理解の参考となり得る情報を

（図表1）IFRS適用会社数の推移（会社数ベース）



を提供したい。

なお、本文中意見にあたる部分は私見であることをあらかじめ申し添える。

IFRS任意適用企業の 市場別分類

IFRS任意適用企業の東証市場別分類（図表3）において、適用企業数はプライム市場が207社とIF